

まちの名に 歴史あり

問い合わせ 文化財事業団 (TEL 893・8111)

きさべ 私部

私部はもともと「きさきべ」あるいは「きさいちべ」と読みました。

『私』という漢字には、「愛されるもの」という意味があり、中国の漢の時代に、^{きさき}后に関する仕事をする役所を「私府」、そこで働く人々を「私官」と言いました。そのため、日本でも^{きさき}后の世話を^{きさき}する人などを私部と言うようになりました。

日本書紀に、敏達天皇の皇后（のちに推古天皇）のために私部を置く（577年）という記述があります。交野の私部も、この時に^{きさき}皇后のために働く人々、として定められたのではないかと考えられています。その後の時代になると、^{きさき}私部、が住むこの土地自体を私部と呼ぶようになりました。

ふだのつじ いちば 札辻・市場

私部城の南側、無量光寺周辺を札辻といい、無量光寺の東側を市場と呼びます。

この地域は、私部城の城下および無量光寺の門前町として発達し、江戸時代には私部に代官がおかれ、無量光寺から代官屋敷にかけては、私部村の中心地域となっていました。

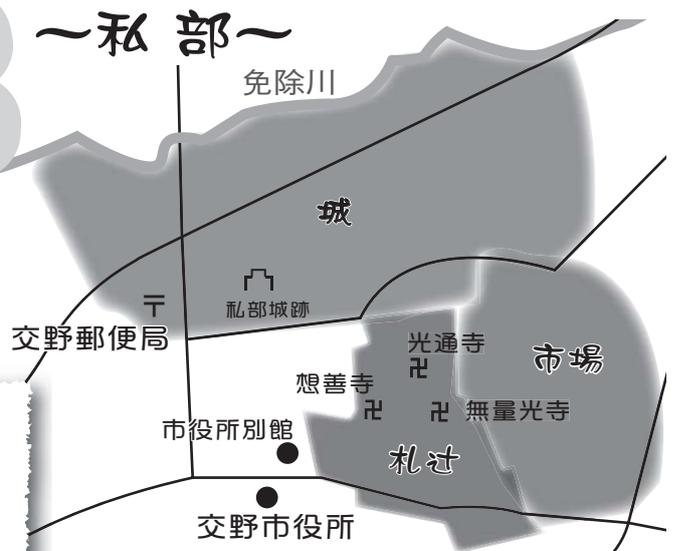
私部は農村でありながら商業も活発な町だったので市がたつてにぎわい、無量光寺の門前は人の往来が多いところから、高札を立てる絶好の場所でした。

高札とは、木の板に民衆が守るべき法やお触れを書いて、人通りの多いところに掲示したもので、平安時代から明治時代初期まで使われていました。札辻とはこの高札が掲げられた場所のことです。

札辻で掲げられた「キリシタン禁制」（1711年）の高札は、現代に残されており、歴史民俗資料展示室で展示されています。



キリシタン禁制の高札



しろ 城

交野郵便局から東側の台地一帯を「城」といい、この中に私部城がありました。

私部城は河内国の守護代も務めた安見氏によって戦国時代に建てられ、織田信長の活動を記録した「信長公記」にも交野城という名前で登場します。信長公記には、戦国大名の松永久秀が私部城を攻めた際に、織田信長が兵を派遣して守ったと記されています。

私部城は、現在間近でみることのできる良好な平城（平地に築かれた城）の跡として府内で唯一の歴史資産です。



私部城の本丸跡

歴史探訪～倉治～

とき・ところ 9月25日(火) 午前10時に倉治図書館前集合

コース 仁平川の洗い場・機物神社・源氏の滝・石仏の道

参加費 100円(保険・資料代)

定員 先着30人

申し込み・問い合わせ 9月3日(月) 午前9時から文化財事業団(TEL 893・8111)